

## 「切立白山神社祭礼」開催

平成24年4月22日に切立白山神社の春祭が開催された。この祭礼に奉納される「切立白山神社太神楽」は、江戸末期の安政6(1859)年2月牛道の中西村から伝授を受けたものと言われている。これは切立地区が中山峠及び西替峠を通じて牛道・白鳥方面と文化交流が盛んに行われ、郡上文化の交流が行われていたためと思われる。その根拠として、神社に「文久元八月吉日白山大権現 中西村中」の幟がある。

大神楽の練りは、宿を出てから辻で一芝舞ってから白山神社に行く。練りの行列は幟(1)一出花(1)一青竹(2)一長刀(1)一奴(5)一畑打ち(17、子供)一神楽幟(1)一剣(1)一お祓い様(1)一東西呼ばわり(1)一おかめ(1)一ささらすり(1)一獅子廻し(9)一笛吹き(9)一神楽打(2)一小太鼓(1)一鼓打ち(5)一神楽持(2)一神楽面(1)一婆面(1)、その他に露払い4人の総勢70余名の行列である。練りは境内に入って脱帽し「上げ獅子」が奉納される。次いで「吹き次ぎ色付け」が奉納され、「大神楽納め候よう」の言立で「大神楽」が奉納される。

「上げ獅子」：お祓い様の言立があつて「山の井」が、次に「大神楽始め候よう」で「あとばやし」、「畑打ち」と続く。獅子は蚊屋の中数人が入り回す。

「見世獅子」：笛吹きの後方に畑打ち・奴・長刀が2列に並んでしゃがみ、神楽舞いの全員 芸能のは獅子お越しの前奏が終わると立つ。お祓い様の言立に続いて「大神楽」「岡崎」「まじり」ばば面・鼻高が入り乱れて舞う。

「花の御礼」：「あとばやし」「山の井」「早大神楽吹きつぎ」が奉納される。

その後、「大道行」で位置が正反対に変わる。その時奴が一言「調子を揃えてよいのう」と唱和する。ここで神事のため神楽はしばらく休憩にはいる。神事が終り、お祓い様の言立に続いて「見世獅子」が奉納される。ここで全員が着帽し、「花の御礼」が奉納されて終わる。そして「帰り岡崎」と「こしずめ」で入場の時と同じように境内を左へ半回りしてから退場する。

今年の祭は、あいにくの雨天であり、低調であったが、舞子の子供たちをはじめ関係者の気持によって盛大に行うことができた。

ここで副会長の和田和美氏の俳句を紹介しよう。

- ・祭笛 奏でる村で ありにけり
- ・幼な子の 祭太鼓の 音高き
- ・祭笠 揃いで子らの 笑顔かな

## 奉仕作業「標柱立て替え」

5月5日の午前中に高鷲町にある郡上市指定文化財標柱が破損・毀損がひどいため、昨年度に続き標柱の立て替え作業を行った。作業は当協会切立地区理事の西脇清美氏と郡上市教育委員会高鷲教育事務所の中屋善雄氏の2名が行った。立て替え場所は「駒ヶ滝」「浄勝寺遺跡」「寺屋敷遺跡」の3カ所である。お二人方ともご苦労様でした。

## 仲谷常夫氏 郡上市教育委員会から表彰

2月19日、会員の仲谷常夫氏が、郡上市教育委員会から長年の文化財保護、古文書研究、俳句創作活動など地域文化の発展に貢献された功績のよって表彰されました。誠に、おめでとうございます。



写真1：切立白山神社太神楽

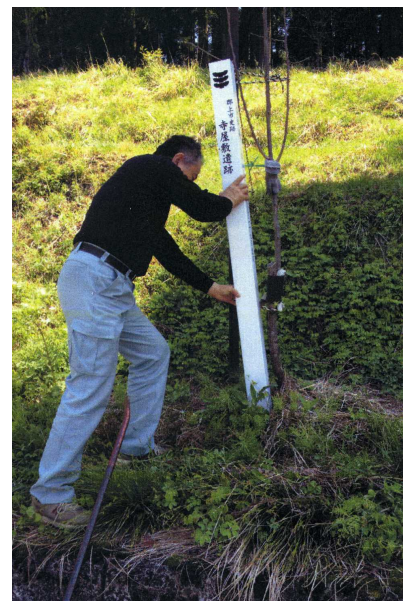


写真2：標柱立て替え作業



## 奉仕作業：郡上 市史跡「立石清掃」 5月23日(水)「鷲見の立石(霊鷲岩)」にて実施

高鷲町文化財保護協会は同町鷲見地区の郡上市指定史跡である「鷲見の立石」周辺を清掃した。同史跡は鷲ヶ岳登山道の途中にあり、雑木・雑草の繁茂がひどく、史跡である巨石がある場所が、道路から判別できない状態であった。23日は朝から雲一つない快晴で、会員参加者23名が風薫る初夏の一日を、汗を流しながら奉仕活動を行った。草刈り機、鎌、鋸やチェーンソーを各家庭から持ち寄り、密林状態になっていた史跡周辺の清掃を行った。

「鷲見の立石」は古くから自然崇拜の一つである巨石信仰の遺跡で、鷲見地区の人たちは、山の神様として畏敬しその近傍へ決して不浄を近づけないとしていた。江戸時代天明の頃、郡上藩の儒学者江村北海がその書「濃北紀遊」にこの立石のことについて次のように記している。

「有霊鷲岩孤峯特立三十丈奇秀無比赤松翠柏 不仮寸土而生茂隼鶴常巢其上」

作業後に、信仰遺跡であるこの巨石に「しめ縄」を張ることを参加者全員で決定した。

なお、高鷲町文化財保護協会は、次世代の人たちに文化財を伝えるために毎年、雪が解けたこの時期に奉仕作業を行っている。



「鷲見の立石」奉仕作業

## ひるがの地区「ギフチョウ」生息地巡回活動

毎年恒例の5月18日から6月14日にかけて、郡上市観光協会ひるがの支部と一緒に郡上市天然記念物である「ギフチョウ棲息地」の巡回を行った。ひるがの地区の棲息地は4カ所が指定されており、その指定地域の総面積は13,128m<sup>2</sup>にのぼっている。巡回ご苦労様でした。

今年は4月は寒かったが、5月になると暖かくなり、巡回はじめの時にはすでに分水嶺公園やひるがの白山神社付近には数多くのギフチョウが飛び交っていた。しかし、このギフチョウを捕獲する心ない都会のマニアがおり、巡回者が指導しても従わないものが多く、巡回指導の限界と憤りを感じた。

高鷲にはギフチョウの棲息地が、ひるがの、切立地区に限定されている。特にひるがの高原は、ギフチョウの食草ヒメカンアオイが自生し、成虫の吸蜜源であるカタクリ、グミ等がありその生育環境がよいことから高鷲村時代に指定された。



芝桜を吸蜜するギフチョウ

高鷲村時代に指定された。